

第6回 道の駅よこはまエリア事業推進協議会 議事要旨

日時：平成30年12月25日（火）10:30～12:00

場所：洗心閣（横浜町）

【平成30年度の取組内容とこれまでの進捗状況の報告】

- ・ 「観光企画の強化」として、上十三・十和田湖広域定住自立圏観光推進協議会のパンフレットを作成・配布。
- ・ しもきたTABIあしすとの下北半島旅ガイド「ぐるりんしもきた」による観光情報提供とバスツアーを実施。
- ・ 「受け入れ態勢の充実」として、昨年度整備した電子看板を活用したPR活動を実施。
- ・ 「レストランの魅力アップ」として、横浜なまこフェアを12月に開催。
- ・ レストランの経営が課題であるため、今後は、レストランメニューの検討会議を行う。
- ・ 「買い物や休憩、憩いで賑わう空間づくり」について、「三保野公園や町の施設の利活用」として、道の駅周辺案内看板を設置。
- ・ 「来訪者が休憩できる空間づくり」として、道の駅エントランスに花のプランターを設置。
- ・ 「イベントや催事などの企画の充実」として。道の駅で、加工団体が交代で毎月イベントを継続で開催。
- ・ 館鼻岸壁朝市、八戸市の朝市や産直施設の視察研修を実施。
- ・ 青森県内道の駅フェアへの参加・視察（H30は道の駅もりたで開催）。
- ・ 「魅力ある商品開発」として、ラベル作成が可能なプリンターを道の駅に導入することにより、商品ラベルのロットを大量に抱えず、コストダウンとなった。また、地元子供たちの絵の展示を今年度も開催し、その絵をもとに新商品開発に繋げていきたい。
- ・ 「PRや売り場の工夫・改善」としては、売り場を季節感あるディスプレイで飾る手作り講習会を開催。また、インターンの大学生による特産物の加工品に関するガイドブックを今年度作成。
- ・ 「集荷サービスの提供」としては、(株)よこはまロマン創社へサービス業務を委託。道の駅職員がぐるっと隊として、リース車両を使用し、道の駅営業日全日にてサービス提供を行っている。また、集荷宅配サービス専用車として軽自動車とサービス専用携帯電話を導入。集荷サービスは、昨年度より利用客が増えている。
- ・ 「売り場の工夫・改善」としては、野菜の種類ごとの陳列及び清潔な売り場づくりを心掛けている。また、道の駅に来る環境づくりとして今年度も絵画の展示を行っている。売り場づくり等に関して、農水省選定「地産地消の仕事人」で、全国の産直に精通している方から、道の駅の売り場等に付アドバイスをいただいた。
- ・ 「冬場の品薄時の売り場づくり」として、県内産地直売施設間の商品交流の検討及び実施。また、冬期の不足野菜の仕入れの検討及び実施。

(意見、質問等)

- ・ 道の駅での事業を進める中で、建物の面積は不足していないか（狭くないか）
 - ⇒ 繁忙期（特に菜の花の時期）はものすごく混んでいる また、物販スペースは確保出来ているが、お客様の休むスペースが不足していることが現状の課題。
- ・ レストランの券売機を設置したが、混雑時には入口付近に行列が出来る。
 - ⇒ 高齢者の方々への対応も含め、お客様のご意見・ご要望を聞きながら、もう少し継続していきたい。

【地域福祉】について

- ・ 「高齢者など住民への宅配サービス」として、道の駅にある商品をカタログ掲載し、宅配で販売
- ・ 温泉や役場ロビーで移動販売を実施。
- ・ 道の駅で購入した重い荷物を自宅まで配達したり、高齢者の利用者については、利用状況を把握し見守りを実施。
- ・ 今後、日用品の宅配について検討する必要がある。
- ・ 昨年度との変更点としては、効率かつ継続実施の可能性を高めるため、「なたねの会」から「よこはまロマン創社」へと委託を変更したことにより、道の駅営業日の全日でのサービスが提供可能。
- ・ 課題は、通年を通しての野菜の販売と日用雑貨の宅配。
- ・ 「宅配サービス先の拡充調査」の現状は、野菜の安定供給が厳しく、また、学校給食センターへ野菜をストックすることができないため、学校給食への提供は出来ていない。「課題」としては、人数が多い農水産業作業時へのこびり（おやつ）の宅配定着。
- ・ 「道の駅への送迎サービス」は、昨年度及び今年度の取組ともに、時間・バスの本数ともに同じとなっているが、温泉バスの利用者は、少人数（10人から20人）のため、今後は利用者的高齢者等への意見調査実施が必要ではないかと考えている。「課題」は、本数や時間に余裕を確保したいが、運転手が不足。現在の利用状況からみると道の駅ルートの必要性についても再度検討し、判断する必要。

(意見、質問等)

- ・ 移動販売の実施状況（内訳）を知りたい。
 - ⇒ 毎週木曜日に役場にお昼時間に合わせて実施しているのと、あとは、温泉に2週間に1度というペースで、月・火・水と北地区・本町地区・南地区と利用日が決まっているので、北地区と南地区は1ヶ月2回ぐらい、本町地区は近くて道の駅を利用できるので1ヶ月に1回というように、1週間おきに実施。（計10回程度）。
- ・ 現在取り組んでいる集荷と宅配の方法を知りたい。集荷のついでに宅配する形が一般的であるが。
 - ⇒ 利用者の要望に合わせて、宅配と集荷を別々に行っている。現状、採算がとれていないので、課題を整理していく必要があると感じている。

【防災】について

- ・ 昨年度、駐車場の拡張や防災除雪ステーションなどの整備に向け、測量・調査・設計、用地取得を実施。
- ・ 今年度は、防災除雪ステーションなどの詳細設計と用地取得に取り組んでいる。
- ・ 「防災訓練やPR活動を通じた防災意識の醸成」として、昨年度は、横浜町総合防災訓練を実施。
- ・ 役場庁舎にて、初動訓練と、北地区（旧有畑小学校）にて町民参加型訓練を実施。
- ・ 今年度も同様に、横浜町総合防災訓練を実施。あわせて、心肺蘇生とAED使用方法の職員対象講習会を開催。
- ・ 道の駅よこはまで、これまでも防災訓練を実施しており、今年度も社員の初動訓練の実施予定。
- ・ 「連絡体制等の構築」として、町内各地を巡回し、防災訓練を実施。
- ・ 道の駅では、冬期の休館日に職員だけで防災訓練を実施。
- ・ 課題として、町等関係機関を加えての道の駅の防災訓練を行い、役割の確認、連絡体制の構築が必要。

（質問、意見等）

- ・ 冬期間通行止めの状況になった場合など、被災した方が休息するのは、新たに出来る休憩し施設になるのか。また、避難時の食料も含めた備蓄品の対応はどのように考えているか。
 - ⇒ 休憩施設は通常時に休息する施設として整備。災害などの緊急時には道の駅や周辺施設、車の中などを活用して対応するなど、今後対応方法を考える必要がある。食料などの配布については、これから防災計画を見直す中で検討していきたい。

【その他】

- ・ 幅広くやっているのですが、今後も継続するため、イベント疲れしないよう効果的に実施してもらいたい。
- ・ 定着には時間がかかる。ニーズの掘り起こしも重要（大変であるが）。
- ・ 高齢化が進んでいく中、サービスの提供方法、本当は何が出来るかなど、事業を進めながら工夫・検証して行く必要がある。
- ・ 道の駅はバリアフリーが進んでいないこととL字型の施設形態がネックとなっている。
- ・ 下北半島縦貫道路が完成すると、今、国道を走っている車の8割くらいが、縦貫道路の方に転換する想定となっている。道の駅に併設されるインターチェンジを利用して車が降り降りする状況となるため、この道の駅よこはまのインターチェンジが非常に重要な役割を担ってくる。このインターチェンジから横浜町の中心方面にどのように結んで町を作っていくのかなというのが、これから皆さんに考えていただきたい。